

たど いわきを辿る!

—1—

旧磐城市(小名浜市街地編) (上)

特色ある地域が集まり、モザイク画のように形成されている「いわき市」。14市町村が大同合併したことなどが要因で、全体像を把握するのは難しい。そこで、合併した1966(昭和41)年以前の各市町村の歩みをひもとき、成り立ちを探った。歴史を辿(たど)る、“旅”の始まり——。



工場の誘致に伴い、人口増加、大型商店の進出などから街には活気が…=1950~1960年代の小名浜市街地(『磐城市10年の歩み』から)



市内東西からパレードを繰り広げた「天狗踊り」(一九六六(昭和四十二年)、磐城市撮影)

「やらなければならぬ」とは、一にも二にも小名浜港の開発」

これは、旧磐城市の市制施行十周年を記念した冊子『磐城市10年の歩み』に記された

市長、三代義勝の言葉。赤字財政から始まった同市の事情、高度経済成長の中で役割を大きくする港湾の存在感などが、如実に表れている。同市を概観するため、まずは「小名浜港」を有した小名浜町の歩みを——。

同市の誕生は、同町が市制

施行を目指し、周辺地域と協議を行ったことが発端。鹿島村の一部が合併から外れるなど混乱もあったが、四町村の統合で調整は進んでいった。小名浜町は元幕領、泉町は泉藩の城下町で鉄道駅を持つなど、合併地域ごとに背景が異なり、市名が問題化。「小名浜市」は反対され、地方一帯の合併を見越して「磐城」の名が採用された。

市勢発展を担った小名浜港は、江戸時代に魚類、年貢米の積み出し港として繁栄。その後は石炭輸送の役割を果たしたものの、一八九七(明治三十)年開通の日本鉄道磐城線(現・JR常磐線)に役目を奪われ、大正時代は低迷。

一方、一九五七(昭和三十二)年に一万トン岸壁(現・1号ふ頭)が完成するなど、昭和に商港化が進展。四一年開通の小名浜臨港鉄道(現・福島臨海鉄道)と連動し、活況を呈していく。

歩みを同じくして臨海工業地帯も整備され、工場誘致が増えていった。すでに日本水素工業などが操業していたが、新日本化学工業や東邦亜

港整備で市勢発展へ 4町村が統合、調整進む

いわき市

1966（昭和41）年10月1日、5市4町5村が大同合併して誕生。64年3月に常磐・郡山地区が「新産業都市」に認定されるまで、各市町村が協議会を設立して活動したことが契機となった。面積は1,232km²で、市としては2003年まで国内最大、県内の約9%を占める。工業出荷額は例年、東北で1、2を争う。人口は昨年11月1日現在、32万1,184人。1997年に中核市指定



状況を呈した1950（同30）年代の小名浜魚市場＝比佐不二夫氏撮影

鉛などが相次いで進出。だが、副作用もあつた。公害や海水浴場の消失な

合併前夜——小名浜地域編

（一部いわき市の資料から）

町村合併促進法を受け、一九五四（昭和二十九）年三月

全国有数の水揚げ

三十一日、小名浜町、江名町、泉町、渡辺村が合併して誕生。面積は約八十五平方キロ。先に

小名浜に合併していた鹿島村のうち上矢田、松久須根、三沢の三集落は湯本町に分離合併した。小名浜港の整備や工場誘致が進み、年間工業製造出荷額は六四年に約百五十億円に到達。漁港は、全国有数の水揚げを誇

どだ。「いわき市」合併後の六七年には塵埃などの問題で住民運動が起き、深刻化。商業は、店舗数が六〇年をピークに下降したが、大型店などの進展を原因に、従業員数や売り上げは増加。マイ

カー時代の到来も重なり、苦慮した地元店が「共同店舗・駐車場」を旗印に、六七年に「小名浜ショッピングセンター」、二年後に「小名浜名店街」がオープン。発展し続けた磐城は、市域外での役割も大きかった。さらなる工業化を目指し、いわき地域を国の「新産業都市」にするため、活動のけん引役を担ったことだ。後の大同合併につながるわけだが、その

結果に、複雑な思いを抱く市民も少なくなかった。「税金が多くて潤っていませんから。大同合併で割を食うのでは、と多くの人が思っていたはずですよ」と、小名浜在住の七十代女性は振り返る。

もちろん、この発言は矜持の表れ。磐城市制は十二年で終わるが、冒頭の三代の言葉にも思いがあふれる。「磐城市十年の努力は、この上にかなる高層近代建築を設営しようとも、ビクともしない基礎であると信じます」敬称略（鷹）

次号は旧磐城市Ⅱ江名・中之作の漁港区編

る「ミナト小名浜」としても隆盛。繁華街は多業種の労働者でにぎわったが、同時に港町特有の事件や事故も頻発。六五年の人口は約六万五千人で、誕生後から一万人超増加。同年度の一般会計当初予算は約十八億円。六三年には、いわき花火大会の前身となる「全国花火コンクール」がスタート。市内東西からパレードする「天狗踊り」も行われた。



食の安全・安心。さらに、おいしい シーフードケーキ

お年始やおせちにも

2024年も変わらぬご愛顧の程、宜しく願いいたします
より使いやすく、便利になった新ホームページ公開中!

創作かまぼこ **かねまん** 本舗

https://www.kaneman.net/
0120-17-3360

■ 電話・FAX・インターネットでも注文承ります。
■ 本店営業時間AM8:00~PM4:00(年中無休)

■ 本店 福島県いわき市平下高久字下原83 TEL.0246-39-3360・FAX.39-3754

■ いわき・ら・ら・ミュウ店 福島県いわき市小名浜字辰巳町43-1 TEL&FAX.0246-53-7125

■ オンラインショップ www.kaneman.net インターネットでのご注文はこちら▶

皆様の幸運を招く 恵比寿様 大黒様

恵比寿様 大黒様